

2020年度 学校関係者評価

2021年3月22日
学校法人 白頭学院
建国中学校
学校関係者評価委員会

○学校関係者評価実施について

- ・日時 2021年2月24日
- ・場所：白頭学院コンピューター室
- ・学校関係者評価委員会構成（参加者）4名
金 英志（PTA会長） 西川隆恵（PTA副会長） 朴 美永（保護者）
洪 隆男（教頭）

○学校関係者評価内容

生徒・保護者のアンケート並びに教員による自己評価に対してその妥当性を評価し、又改善案などの意見交換を実施。

【教育目標関連】

③記念講話などで話される内容をよく理解できている。 生徒（A+B）60% 教員（A+B）64%
3.1節、光復節、世界人権など1年に6回の講話がある。生徒の4割があまり理解できておらず、教員から見ても同様、生徒の約4割は理解が難しいと感じている。講話で使用する単語などが難しいのではないかと？ 民族学校に来て歴史を知れる機会なので理解度が上がるような配慮が欲しい。

【学校生活・学習関連】

④進路に関する情報は十分に手に入れることが出来る。 生徒（A+B）69%

⑤自分の進路目標は決まっている。 生徒（A+B）69%

建国中学校としては、建国高校への進学に重きを置いているので、他校への情報提供や勧めを積極的には出来ない。保護者としては、中学生なりの将来の目標、これから将来に向けて、何を勉強し準備するべきか等、考える時間や取り組む時間などを設けることを希望する。

⑦授業は工夫されていて分かりやすい。 生徒（A+B）61% 教員（A+B）91%

⑧先生に質問しやすい環境である。 生徒（A+B）71% 教員（A+B）100%

⑨悩みや相談を話しやすい環境である。 生徒（A+B）52% 教員（A+B）91%

教員の9割が、授業を分かりやすく取り組んでいると回答し、生徒の6割は、授業が分かりやすいと答えている。9割の教員は生徒に話しやすい環境を提供していると回答しているが、実際には生徒の3割が気軽に質問出来ない状態である。生徒たちは、悩みや相談は友達の前を気にするのか、話しかけにくいのか、半数の生徒が教員に相談するのが難しい状態。生徒が気軽に質問できる状態であれば、⑦の生徒の授業への理解度も%が上昇するのではないかと。2020年度から担任団を導入し、生徒が相談できる教員を選べる環境へと配慮している。しかし、昨年も生徒は「相談できる」という設問に対し、半数が肯定的で半数が難しいと答えた。現代の子どもには、相談したくても直接、声をかけるのに勇気がいるかもしれない。SNSのような形で、いつでも気軽に教員に個人的に連絡し相談できるツールが欲しい。

→ 2021年度からの新中1年はタブレットを使用する教育が導入される。ChromeBookを使用し、教員と生徒が個人的に繋がれる（相談できる）ように設定する。中2、中3はGスイートを使用し、教員と生徒が繋がれる環境を利用し、相談しやすい配慮を考える。

【民族教育環境】

⑬民族教科（国語・国史等）に熱心に取り組んでいる。

生徒（A+B）73% 教員（A+B）82%

⑭国語の実力が伸びていることを実感できる。

生徒（A+B）80% 教員（A+B）100% 保護者（A+B）71%

⑬の民族教育に対して、生徒の7割が熱心に取り組み、8割の生徒が国語の成長を実感できている。教員の評価は、⑬の「民族教科への取り組み」で、C評価が2割となっている。（熱心に取り組めてないのが2割）しかし、実力の伸びは100%と評価。生徒の8割が国語の実力の伸びを実感出来ているのは良いことだと思うが、保護者の評価は少し低く7割が実力の伸びを実感している。更に上を目指すため、教員の「⑬民族教科へ熱心に取り組んでいる」のC評価2割の生徒に対するフォローを強化して頂きたい。

⑮韓国との交流の機会が十分にある。

生徒（A+B）56% 教員（A+B）82% 保護者（A+B）56%

1年を超えるコロナ禍の状況の中、今年度は夏休みの「国人」など、韓国との交流を持てなかった。高校はリモートを用いて韓国との交流する機会を少し持てた。しかし、1学期の一部が休校となり、それによる学習面の遅れの調節、また登校が始まると校内でクラスターを発生させない取り組みなどを優先とする1年であった。韓国との交流も大切だが、今はコロナの終息など、先を予測できない状況にあり、1年間の学習の調整と感染防止が優先される1年であった。

【総論】

⑦授業は工夫されて分かりやすい。⑨悩みや相談は話しやすい環境である。この2つは、生徒と教員で意識に大きな違いがあるが、それ以外は全体的に肯定的な意見が多いように感じた。

この学校評価以外に話された内容として。

「小学校では保護者が学校の行事に参加することが多く、保護者が学校へ足を運ぶ機会が懇談以外に、年に何度かある。また行事に向けて保護者同士の交流もあった。しかし中学にあがり、保護者は懇談以外、教員と話す機会もなく、保護者間で交流する機会もない。その為、保護者が疑問に思ったことなどを気軽に聞けない状態にある。小さな疑問を、学校に電話をして、教員の方を呼んでもらうのも気が引ける。保護者が小さな疑問をため込むのは、学校にとっても保護者にとっても良い状態ではない。気軽に教員に質問出来るツールのようなものが欲しい。」

→ この提案に対して、

学校側（教頭先生）からGメールで「今月で困ったことや質問などありますか？」というメールを毎月、月末に配信する。保護者がメールを受け、質問したいことがあれば、返信できるというシステムを作る。質問だけでなく、子どもの学校生活で良かったことなどもあれば、このメールで送るようにする。肯定的な内容などは「建国へ通って良かったこと」として生徒募集の学校説明会などで紹介として用いることにも繋がる。学校側が保護者から受け取った質問を、他の保護者もシェアできるよう公開、もしくは非公開などを選べるようにする。（質問した保護者が選択） 校長、副校長の許可を得、4月から開始できる様にする。